

特集 Zoom ハイブリッド会議の工夫と機材

現在、コロナ禍によりオンライン会議が普及していますが、実際に人が集まって会議を行う方が話しやすいこともあります。今後は実際に集まる参加者と Zoom による参加者を組み合わせて行うハイブリッド会議が増えたと思われますので、その具体的な実施方法について記載します。

■参加者が各自のパソコンを使用する

複数人が同じ会議室で各自のパソコンを使用して Zoom に参加する場合は、複数のマイクとスピーカーによりハウリングが起こるので、ヘッドホンを使用します。しかし、その場合は参加者ごとにパソコンとヘッドホンが必要になり、実際に集まって話し合うメリットがあまり感じられなくなります。



■参加者が1台のパソコンを共有する

上記の会議室でハウリングを防ぐためには1台のパソコンを共有して、Zoom の参加者はプロジェクターで映します。また、会議室の全員を映す広角カメラ、集音マイク、スピーカーを使用します。その場合、会議室の参加者は話しやすいですが、Zoom の参加者から見ると会議室の参加者が小さく映るので、誰が話しているのか分かりにくくなります。



■ズームカメラを使用する

実際の会議室で発言者が分かるようにするために、一般的なビデオカメラをビデオキャプチャーでパソコンに接続します。そして、ビデオカメラのズーム機能を使用して、広角で全員を映し、望遠で発言者を大きく映します。しかし、その場合はカメラのズームを操作する人が大変になります。



■360度カメラを使用する

カメラの操作を簡単にするため、360度パノラマ撮影に対応したカメラがあります。右図のように1台のカメラで参加者全員と個人を大きく映すことができます。ただし、個人を大きく映すにはカメラの手操作が必要になります。



360度カメラ 24,800円 (出典:サンワサプライ)

■自動追尾カメラを使用する

カメラの操作を自動化するには、音声を感知して自動で追尾するカメラがあります。右図のカメラは、水平170度の範囲を自動的に回転して発言者を追尾しながら映します。マイクは4個搭載されて、集音範囲は3mです。



自動追尾カメラ 49,800円
(出典:サンワサプライ)

■360度の自動追尾カメラを使用する

会議室の全員を360度で映し、発言者を自動認識して大きく映すカメラがあります。これで誰が話しているのか分かります。右図のミーティングオウル (Meeting OWL) は360度に対応するカメラ、マイク、スピーカーを搭載しています。マイクは8個搭載され、半径5.5mまで認識します。スピーカーは3個搭載しています。高機能で便利ですが高価になります。



ミーティングオウル 125,950円 (出典:ソースネクスト)

まとめ

Zoom のハイブリッド会議を円滑に行うには、会議の参加人数、発言者の分かりやすさ、カメラの操作性、マイクの集音性、予算などを考慮して、カメラとマイクの適切な機器を検討する必要があります。

※表示価格は2021.1.5現在のアマゾンによる税込価格です。 (文責:佐藤)